（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	niconico福津			
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～	令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	3
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～	令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	2	（回答者数）	2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年4月1日		～	令和8年3月31日
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	4	（回答数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高い専門性と支援効果 訪問先施設から「課題の軽減」「理解の深化」など、具体的な成果が評価されており、支援の有効性が高い。	訪問先に合わせた支援の実施 訪問先施設の方針や環境を尊重しながら、個々の児童に応じた支援や助言を行っている。	支援計画の見える化 目標や達成度をより明確にし、訪問先施設にも分かりやすい計画・評価の仕組みを構築する。
2	関係機関との連携力 家庭・学校・放課後等デイサービスと連続した支援が実現できており、訪問支援として理想的な連携体制が構築されている。	情報共有と連携の徹底 訪問後のカンファレンスや保護者への共有を通じて、支援内容の一貫性を保っている。	直接支援の質の向上 助言中心だけでなく、必要に応じた直接支援の在り方を検討し、支援の幅を広げる。
3	保護者・施設双方からの高評価 保護者評価・訪問先評価ともに高い満足度となっており、説明・支援・対応すべてにおいて信頼関係が構築されている。	PDCAサイクルの実践 アセスメント→計画→実施→振り返りの流れを徹底し、継続的な支援の質向上につなげている。	外部視点の導入 第三者評価や専門機関との連携を強化し、より客観的な視点での質向上を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援計画の具体性 計画の目的や達成状況が分かりにくいとの意見があり、評価の明確化が課題となっている。	訪問支援の特性による制約 助言中心の支援形態により、直接支援の機会が限定されている。	計画・評価の明確化 目標設定や達成度の可視化を行い、訪問先・保護者にとって分かりやすい支援計画に改善する。
2	直接支援の不足感 訪問先から、より積極的な直接支援を求める声が一部ある。	計画運用の課題 計画自体は作成されているが、達成度や評価の可視化が不十分である。	支援方法の柔軟化 助言と直接支援のバランスを見直し、児童や施設の状況に応じた支援を行う。
3	外部評価体制の未整備 第三者評価等が未実施であり、客観的な評価体制の強化が求められる。	外部との関係構築の範囲 日常的な連携はできているものの、第三者評価や専門機関との関わりが限定的である。	外部連携の強化 第三者評価の導入や専門機関との連携を進め、支援の質の向上につなげる。